

ワカメ養殖試験

山口 正市・山下 康夫・島崎 大昭

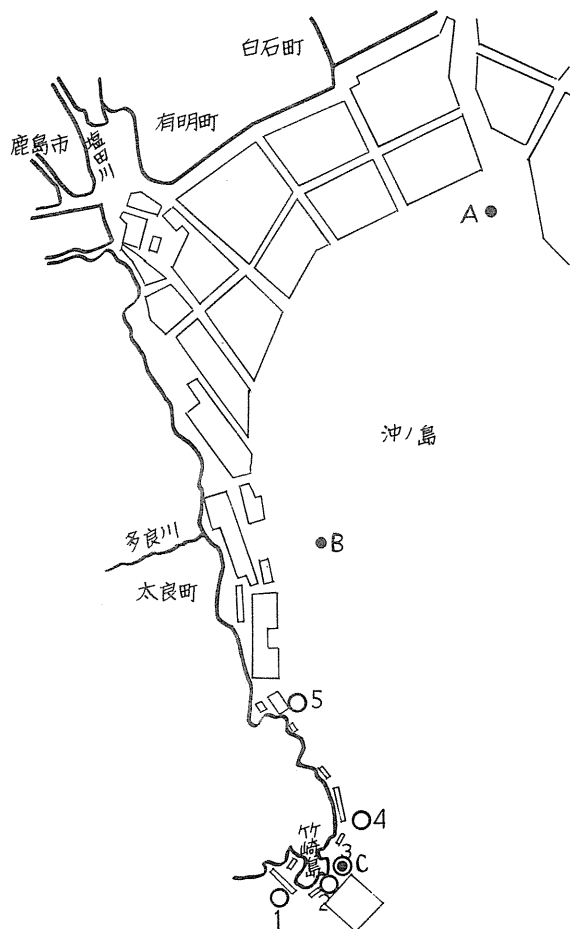
1. 養殖適地調査

供試種苗は島原産母藻を用いタンク採苗，41年10月13日に仮植。調査点1～5（第1図）は水平筏式 $1.8 \times 1.8 m$ ，親なわ4条で10月29日から（幼体 $0.6 \sim 1.2 cm$ ），調査点A～C（第1図）は，延なわ式，親なわ $3.6 m$ で12月7日から養殖（ $0.5 \sim 1 m$ 層）を実施し，毎月1回葉長を測定した。

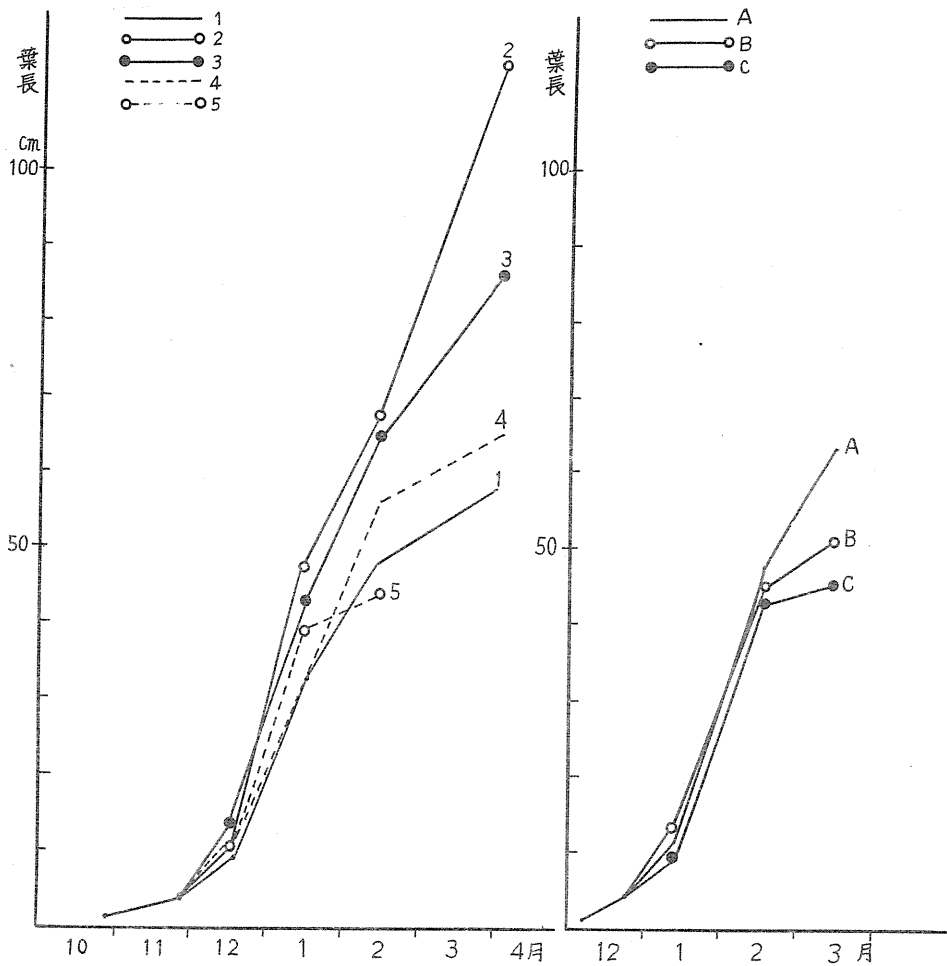
調査点1～5では第2図に示すとおり，1月以降生長の相違が目立ち，4月4日調査時には，調査点2の生長が最もよく最大葉長 $160 cm$ ，平均 $114 cm$ を示した。調査点1，4は生長，品質ともに劣っていた。調査点5は試験途中で施設が破損した。

調査点A～Cでは第2図に示すとおり，2月以降生長の相違が目立ち，3月中旬調査時には，調査点Aの生長が最もよく最大葉長 $89 cm$ ，平均 $63 cm$ を示した。調査点Cは葉先の末枯れで生長が悪かった。品質も調査点Aが最もよく，B・C点では色落ちがみられた。

このように養殖成績は竹崎島周辺の小範囲内でも場所によってかなり相違している。また，海域全体では湾奥部ほどよい傾向が認められた。



第1図 調査点



第2図 各調査点におけるワカメの生長（大型葉10葉体平均）

2. 収穫方法別収量比較試験

供試種苗は島原産母藻を用いてタンク採苗，42年10月18日に仮植。11月11日に水平筏式 $1.8 \times 1.8 m$ ，親なわ4条で本養殖を実施した（幼体 $1.0 \sim 1.5 cm$ ）。それぞれ箇所を定めて（親なわ $7.2 m$ ），剪取収穫は1月8日，15日に葉長 $40 cm$ 以上のものを選んで行ない，間引き収穫は早期を1月15日，後期を1月30日，2月6日に行ない，4月20日に何れも最終収穫をした。

第1表 収穫方法による収量の比較

収穫方法		収穫月日						
		43 1・8	1・15	1・30	2・6	4・20	4・22	合計
剪 切 収 穫	収 量 (Kg)	6.2	11.0			45.8		63.0
	本 数	120	200			493		813
間 引 き 収 穫	収 量 (Kg)			14.2	15.1	43.3		72.6
	本 数			215	134	632		981
"	収 量 (Kg)		9.8			12.8	18.5	41.1
	本 数		110			171	215	496

結果を第1表に示す。収穫方法によって収量が相違しているようにもみえるが、観察によるとしけたとき大きな葉体の流失があり、これが結果にかなり影響しているので、収穫方法による収量の違いはあまり明らかでない。なお、間引きは20cm間に10本を残し収穫した。

3. 養殖試験

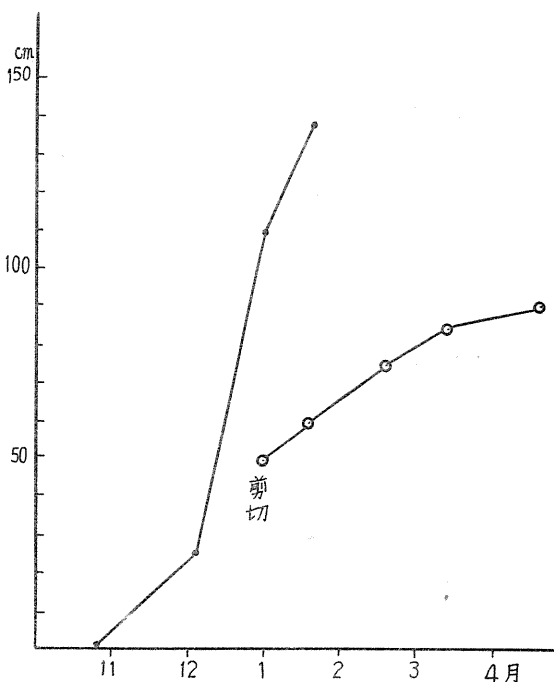
供試種苗は竹崎島地先で養殖した母藻を用いてタンク採苗(43年5月23日)、43年10月31日に仮植、12月4日に水平筏式3.6×1.8m、親なわ4条で本養殖を実施した(幼体1.0~1.5cm)。

ワカメの生長は第3図に示すように2月下旬には葉長76cmに達し、収穫可能になった。親なわ1m当り収量の時期的変化を第2表に示す。なお、成実葉の形成は天然ワカメに比較して少いが、採苗には充分利用できた。

第2表 収量の時期的変化

月 日	44 3. 6	3. 22	4. 11
収量 (Kg)	5.9	9.6	18.0

親なわ1m当り



第3図 剪切収穫後の再生長
(大型葉10葉体平均)